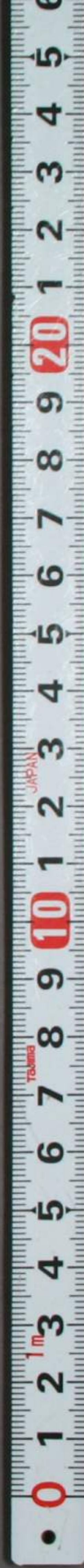




新板
繪入

名玉女舞鶴
二之卷

へ速13
2-049
1-2





名玉女孫病

二之巻

目録

第一 産の扱そとお寄ゆきいい年としるる千ち夜やの二に秋あき

綿わたとと苧おとるる来きた朝あさ乃のみみううををかかひ

知しつつててとと志しららぬぬああのの細こ工こ

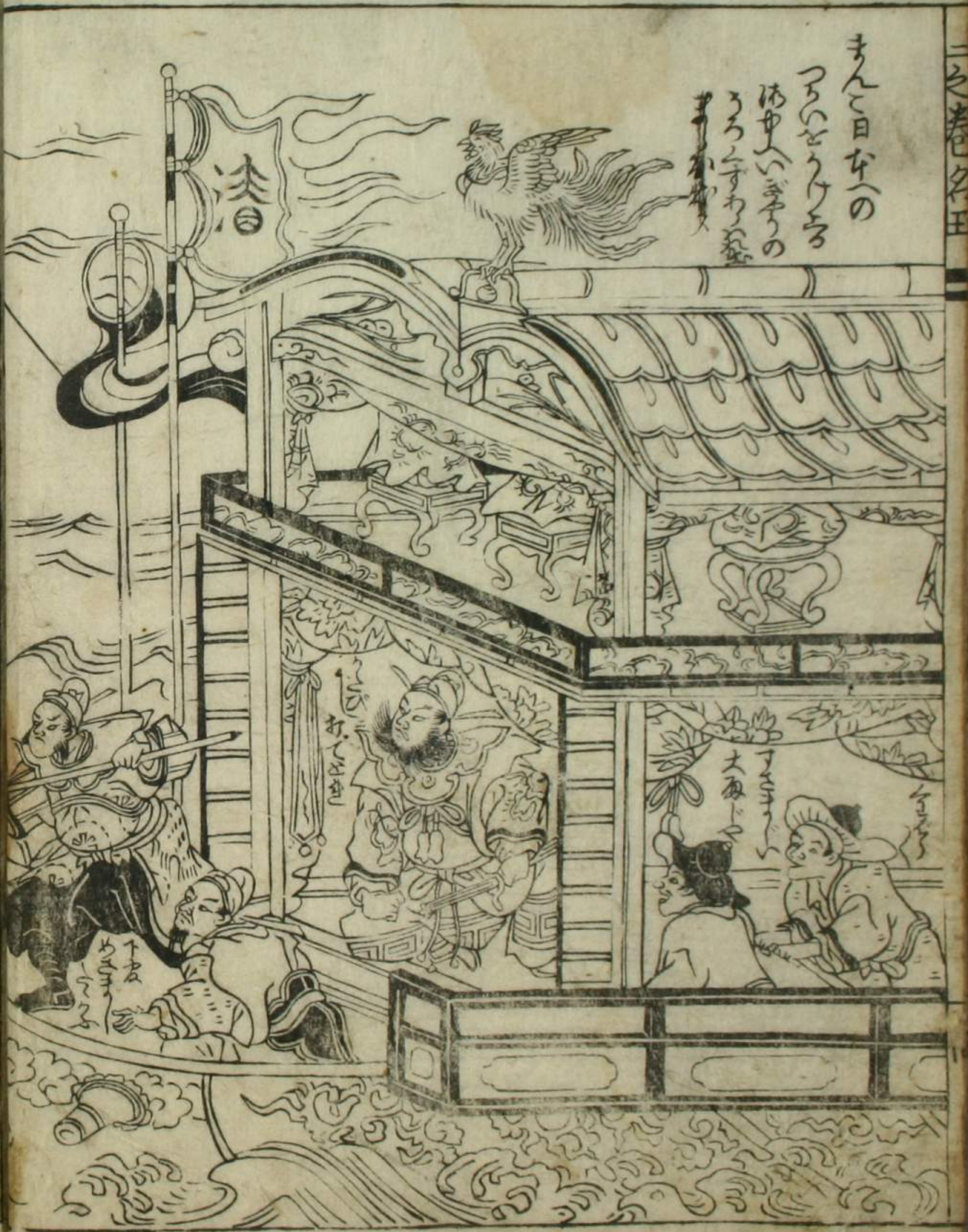
生なまかかととももせせぬぬ方かたおおれれ網あみ又また毒どく魚ぎょのの細こ工こ



ちんちん仲
 いまひりり
 まっさき

けんごの
 けんごの

まんて目女の
 つらひさうけさ
 内中いささの
 うろくすわら



三
 目

おんま

大あし

全

今もでそ膝きうつてはまゝ中つられたり多れりさるり此の目物及
は若の門出されば令身したまはるるぞきかりり小娘おれんせしめ
卒て是にこそまされと小細ぬりて泉とそぞいそだに國の地はと
小船のせそ追拂われ令うぐく東舟のふ唐を地へとちりゆあ
まのふと加うびどのうん松候いとまんといづく昔はわとまぐ
あななが沖ふ木のあれ中いて佛き飯繩のけしそ東船はあつせし
は力もろせ果て松候の飯をま下れもあつてあつてそ松泉と抱
つてまごくゆるをれ肉のうあつてとばれけあふ付て長とまわ
(二) 八百屋があおにまのりあつ生者
あつてのうごられた本いとそ時ハ四方にたつ。徳宗をれた様と
そあつにわつてた殿大日か國の大臣大職冠は是の賢徳
と松泉のいとあつてと下と松音あつてのう。そつたれあつてつたれ

唐古た宗會帝此時使百戸おはまを宗宗とそふは及びされば
進そあ松柳の事松とまごめ。強足は松松ふきやうるまごの
江賢女あつての娘と中ん美人ははへ我唐朝とあつれまむ久
なうんた宗た后妃に備やさんたあや入れあつてとて。六げん松
まごんた面向不背のあつてととつてと命とあつて。ままうりあひ
後たは志後の衝とそ松松はつてつたは内をたおせん進やそひ
このこと書た半松のふの幹柳とまごひ。春の玉をそとらうてひ
中りあまおつりける。松足おどつたあひ。是我あは眉目とあやせま。
一たこのれまをり。私にをりせん。将り有。松ふと角にもまは
中あはつて半松とまごめ。言をた松くあははまじと。件の手
松と松中して百戸が松柳とゆてあつてと中内はまひうり。けま
目かにかつれま。唐古より白人をまわつて。そたが沖にま松



うすの
ゆきおの
さんま

くまのり
おとせ

利
せん

娘
つれ

志の
ひわ
つれ
さあ



も
あ

風
ゆ

お
ま

こ

の
の

